

当院では以下の研究を実施しております。

この研究は、通常の診療で得られた画像データや過去の記録を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

[回復期リハビリテーション病院の失語症を有する 脳疾患患者における認知機能と ADL の関連]

1. 研究の対象

2024 年 1 月 1 日～10 月 31 日までに入院した脳疾患患者のうち、失語症がある 44 名

2. 研究目的・方法・期間

研究目的：失語症患者の認知機能の評価には、非言語性検査や行動観察が重要と考えられる。失語症患者の認知機能の評価する指標としてレーブン色彩マトリックス検査（以下 RCPM）がよく用いられている。また、脳血管疾患患者を対象とした研究では、RCPM と Barthel Index（以下 BI）は正の相関があると言われている。しかし、RCPM は失語症が重度の場合や机上検査の拒否が強い患者の場合には評価自体が行えない事がある。一方で認知関連行動アセスメント（以下 CBA）は行動観察から認知能力を評価する為、前述の場合でも評価が可能である。また、脳血管疾患患者を対象とした研究では CBA と FIM の運動項目の点数に正の相関があると言われている。

しかし、これまでの研究では脳血管疾患患者が対象となっており、失語症を有する脳疾患患者のみを対象とした研究は少ない。そこで、失語症を有する脳疾患患者のみを対象として FIM の運動項目と CBA、RCPM、FIM の認知項目の関連を検討したい。

研究方法：Shapiro-Wilk test にて、後述の FIM の運動・認知項目、RCPM、CBA の総合点、年齢の正規性を検討する。FIM の運動項目と FIM 認知項目、RCPM、CBA の総合点の関連は、前述の正規性の検定で正規分布であれば Pearson の相関係数、非正規分布であれば Spearman の相関係数にて検討する。統計解析ソフト R (version4.3.1) を使用。いずれの統計手法も有意水準は 5%とする。

研究期間：(開始 2024 年 1 月 5 日 ～ 終了 2024 年 12 月 20 日)

3. 研究に用いる試料・情報の種類

失語症を有する脳疾患患者の FIM の運動項目、認知項目の点数、RCPM の総合点、CBA の総合点、性別、年齢、疾患名、発症日、入院日

4. 他機関への提供

なし

5. 個人情報の取り扱いについて

プライバシーの保護に配慮するため、患者の情報は匿名化処理を行い、直ちに識別する事ができない状態でデータを登録されます。

6. 利益相反について

本研究は、利益相反に抵触しない。

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
また、この研究課題の対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合、下記の担当者までお申し出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じる事はありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：赤羽リハビリテーション病院

リハビリテーション科 政木 博明

電話 :03-5993-5777(代表) FAX : 03-5993-5778

(2025 年 2 月 10 日作成)